

# はこだて子どもサポートシート 記入例

(作成日：平成〇年5月11日)

【様式A】

氏名	函館 太郎		性別	男	生年月日	平成19年8月25日		
住所	函館市湯川町3丁目38番38号				連絡先 (TEL)	0138-57-8251		
家庭状況	氏名	生年月日	続柄	学校 職業	氏名	生年月日	続柄	学校 職業
	函館 一郎	S 44 5. 1	父	会社員	函館 太郎	H 19 8. 25	本人	函館市立教育 小学校3年
	函館 花子	S 45 1. 15	母					
	函館 遥花	H 18 4. 30	姉	函館市立教育 小学校4年				
障がい名・病名			診断時期		診断機関 (担当医師等)			
〇〇〇〇			H23. 11. 22		〇〇病院 (〇〇医師)			
手帳等	身体障がい者手帳 (有・無) 種 級 (障がい名: ) 交付: 平成 年 月 日							
	療育手帳 (有・無) <input type="checkbox"/> A <input checked="" type="checkbox"/> B 交付: 平成24年 3月 2日							
	<input type="checkbox"/> 障がい児福祉手当 <input checked="" type="checkbox"/> 特別児童扶養手当 <input type="checkbox"/> その他 ( )							
検査	平成26年8月27日 (検査名: WISC-IV) (IQ・FIQ・FSIQ等: 90 ) 平成 年 月 日 (検査名: ) (IQ・FIQ・FSIQ等: )							
保育歴	平成21年4月~平成24年3月 (〇〇〇 保育園・幼稚園) 平成 年 月~平成 年 月 ( 保育園・幼稚園) 平成 年 月~平成 年 月 ( 保育園・幼稚園)							
学歴	平成24年4月~平成25年3月 (函館市立〇〇小学校) 平成25年4月~平成 年 月 (函館市立〇〇小学校 特別支援学級) 平成 年 月~平成 年 月 ( 学校)							
支援内容 機関等	時期	支援機関		支援内容				
	平成23年 平成25年	〇〇センター 〇〇センター		・視覚的な支援が必要である。スケジュール等で見通しをもたせることが大切である。 ・大きい集団での活動で不安感を示した場合は、別室に移動させ、落ち着かせるなどの配慮が必要である。				
備考	・平成24年度の函館市就学指導部会において、特別支援学級 (自閉症・情緒障がい) の判定							

家庭 での 様子 子 (○) や 関 わ り 方 (◇)	学 習	○ 勉強したいという気持ちはあるが、少し難しい問題やはじめの問題があると、意欲が低下し、すぐにあきらめてしまう。 ○ 問題数が多いと、最初から取り組もうとしない。 ○ 集中できる時間が短い。  ◇ プリントなどの教材は、本人と確認して、問題数を決め、約束した問題数の箇所に赤線を引いて、終わりの見通しをもたせている。
	身の回り	○ 排泄は自立している。 ○ お風呂は、一人で入り、体や髪の毛を洗うことができる。  ◇ 片付けが苦手であるため、片付ける場所を絵で示している。 ◇ 学校に着ていく衣服を選択できないため、夜のうちに何着か準備し、自己選択させている。 ◇ 箸を上手に使えないので、矯正箸で練習している。
	遊 び	○ 最近は姉とのかかわりにも不安感を示すことが多くなった。 ○ 最近はパズルに興味を示し、最後まで一人で仕上げると、喜びながら報告に来る。  ◇ 興味のある遊びは、区切りを付けて終わることができないので、タイマーで終わりの時間を気付かせている。 ◇ 家では一人遊びが多い。休みの日はできるだけ外出し、友だちとのかかわりをもたせようとしている。
	コミュニケーション	○ 話すときは一方的である。 ○ 相手の気持ちを考えないで話すことが多く、そのことが原因で、姉とよくけんかをしている。  ◇ 自分が話す時と、相手の話を聞く時の区別を付けさせるために、絵カードを使って順番を意識させている。
	社会性	○ 協力して、何かをすることが保育園の時から苦手である。最近は少しずつお手伝いをしてくれるようになってきた。 ○ 気分が乗らない時は、指示に従わないことが多い。  ◇ 姉と一緒に取り組めるお手伝いなどを設定し、協力することの意味を教えている。
	その他	○ 大きな音が苦手である。特に赤ちゃんの泣き声を聞くと、パニックになる。 ○ パニックになると、自分を傷付けてしまうことがある。  ◇ パニックになった時は、その場所から別の場所に移動させて、まず気持ちを切り替えさせてから、話を聞くようにしている。
保護者・本人の願い	【進路等を含む】 〈保護者の願い〉 ・ 自信がなく、新しい活動に不安感を示すことが多いので、学校の色々な活動を通して、自信を付けてほしい。 ・ 1日1時間でもいいので、通常の学級の友だちと一緒に勉強ができるようになってほしい。 ・ 高校は普通高校に通わせたいと思っている。 〈本人の願い〉 ・ 友だちを仲良く遊びたい。	

長期目標を設定する際の期限は子どもの実態等で設定願います。

【様式B】

第 学年 組 氏 名

長期目標（1年後まで）

- ・ 1 単位時間、先生の指示にしたがい、落ち着いて学習に取り組むことができる。
- ・ 与えられた課題に対して、最後まで粘り強くやり抜くことができる。

『いつまでに』

『だれが、何を、どのように』

できるだけ数値なども入れ、具体的に評価願います。

短期目標（7月まで）		指導内容・場面	指導・支援方法	評価（子どもの様子）
生 活	・ 在籍級や交流学級の環境に慣れ、様々な活動に自信をもって取り組む。	（日常生活の指導） ・ 役割 ・ 手伝い	・ （指導者が）スケジュールを個別に作成し、活動に見通しをもたせる。 ・ （指導者が）特別支援学級で事前に練習をさせる。	・ スケジュールに沿って活動することができるようになった。 ・ 事前に練習をすることで、安心して活動に取り組む姿が見られるようになった。
	国 語	・ 順番を守って発表ができる。 ・ 集中して話を聞くことができる。	・ （指導者が）話す順番を絵カードで示す。 ・ （指導者が）メモするように指示する。	・ 順番を意識して話すことができるようになった。 ・ 20分程度であれば、集中して話を聞くことができるようになった。
学	算 数	・ かけ算や割り算の意味が分かり、簡単な計算ができる。	・ （指導者が）学習の定着度に応じた数種類のプリントを準備する。	・ 1 単位時間に 1 枚のプリントを最後までやり抜くことができるようになった。
	図 工	・ 運動会についてテーマを決め、絵を描くことができる。	・ （指導者が）運動会のプログラムや写真などの資料を提示する。	・ 資料をもとにイメージをふくらませるとともに、テーマを自己決定し、意欲的に絵を描くことができた。
	習 自 立 活 動	・ 場や相手の状況に応じて主体的にコミュニケーションをとる。	・ （指導者が）「がんばりカード」を作成し、約束やルールを守れた時にシールを貼り、できあがりの様子を視覚化する。	・ 友達に対して自分から関わりをもとうとする場面が増えた。 ・ 休み時間や休憩時間では、友達とのかわりを楽しもうとする姿も見られるようになった。
交 流 及 び 共 同 学 習	・ 交流学級での活動に慣れるとともに、友達とかかわり合いながら活動に取り組むことができる。	週当たりの時数 ・ 音楽… 1 / 1 ・ 図工… 2 / 2 ・ 体育… 3 / 3 ・ 特活… 1 / 1 合計（7 / 28）	・ （指導者が）手本となったり、支援してくれたりする友達を同じグループにするよう配慮する。	・ 友達の支援を受けながら楽しく活動する場面が増えるなど安心して学習に取り組むことができるようになった。

交流及び共同学習を効果的に実施するためには、子ども一人ひとりの実態に即したねらいや配慮を踏まえた指導を行う必要があります。そのためには、指導計画に、交流及び共同学習の目標や指導内容、指導方法、指導体制等を明確に位置付け、組織的、計画的に実施することが大切です。